

通信 組合	同 舟	府中稲城不動産 取引業組合
4月 8日	5号	編集兼発行人 高野豊次

定例九月理事会開催

一、時 九月五日午後五時
 二、ところ ダイワ不動産
 三、出席者 田中、内山、石黒、榎峠、辻、
 加藤、小林、山村、結城、高野、
 各理事、外に平井青年部員

要領次の通り

A 報告事項

(1) 三多摩連合会部会報告の件
 指導厚生及び青年の各部会の模様を
 結城、榎峠、理事並びに平井青年部員
 より報告あり、各員これを了承した。
 尚これに関し山村理事長よりも報告
 があつた。

B 協議事項

(1) 不動産斡旋調書提出に関する件

不動産斡旋調書を所轄税務署へ提出
 方については既に法令に於て定められ
 たるところなるも本件に就いては憲法
 違反その他の疑義あるをもつて府中稲
 城組合としては全員提出を拒否するこ
 とに可決決定した。

(2) 登記事務委嘱に関する件

八月理事会に於て可決した登記事務
 委嘱の件は其の後種々検討の結果従来
 通り登記は各自、自由にすることに決
 定した。尚登記法令の改正等多きを以
 てこの際三三の司法書士に依頼し指導
 方機会を作ること内定。

(3) 調定委員会設置の件

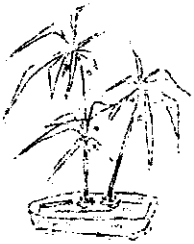
業者間は勿論客との各種トラブルに
 際し事件が表面化せぬ間に調定をする
 為当組合に調定委員を置くの出議あり。
 一同これに賛成した、但し定員は五名
 程度としこれら委員の任命は山村理事
 長に一任した。

◎ 物件紹介

場 所	区 分	数 量	単 価	金 額	連絡先	備 考
多摩町関戸	山林	一反十三歩	—	仕切三〇〇万円	ダイワ不動産 電話三九一番	桜ヶ丘駅 二八〇〇米 投資向
多摩町一の宮 立山後	〃	六〇〇坪	〃	仕切二五〇〇〇円	〃	桜ヶ丘 記念館附近
〃	〃	二、三〇〇坪	〃	〃	〃	〃
南郡由木村南大沢	雑地	一、二二坪	〃	一、二〇〇〇円	高野不動産 電六五四九番	〃
府中南町二一四	宅地	五〇一 八〇坪	〃	三七〇〇〇円 三九〇〇〇円	大國不動産 電話二〇三番	〃

続々投稿を待っています

人と店



人が最低の地位や最低の生活に陥つた場合所謂立ち上る気力が必要であるということ
を力説する山岸不動産代表山岸正治君は、長野県北信の産、専修大学を出て直ちに北支に
渡り、華北交通に就職した。尤も華北交通と言つても教育方面に席をおいたので、全くの
気楽な大陸生活に何不自由なく然も将来を約束せられた楽園であつた。

然るに突如訪れた敗戦という憂目に、どうすることも叶はず一族は裸一貫帰国し全く途
方に暮れる日が多かつた。偶々シロップ卸を思付き渋谷で開業の結果は折よく終戦のゴタ
ゴタに乗じて若干の業積を上げたものゝ、これに倦き足らず今度は生菓子の会社に出
したのが損失の始りで同会社が閉鎖後は一日として楽な日はなく、職安行きは勿論あらゆる
職種にも就いたが要するに貧すれば鈍するの例に、最低の生活を得る為には職種のよし
悪しなど選ぶいとまがなかつたものといえよう。

然し自分は必ず立ち上るといふ意志に燃えており、旁々友人よりも不動産業をやつて見
てはどうかとの勤めもあつたので昭和三十四年の取引員主任者試験に応募し合格を得たの
で直ちにこの業果に転身、府中美好町一の三四に開店した。従つて根つからの商人でな
いため時には損をしたことも一再ではないが常に信義と誠実を胸中に自転車一輛を足とし
て東奔西走今日の財をなした。

今では銀行方面の信用も絶大で得意先も増大したが決してこれにおごることなく地味を
モットーとして着実に経営している。家庭には夫人のほか一女がある。以て自重自愛を望
む。

連載



白川郷

(三)



生

白川郷の人情風俗を述べる前に大家族の生活状態を少しく述べてみたい。

勿論大家族内の秩序は威たるものがあり家長自身が豊敷の家長室で命下するので一応の
目安はあるとしても、野良や炊事仕事の細目になると家長自らが采配を振るものではなく
家長の補助機関として野良仕事を監督するに鐵頭、炊事仕事を司る者に鍋頭がある。

これ等の各頭は家長の方針に従い、夫々の担任を守り家族は黙々としてそれに従う丈で
ある。唯時を告げるのに擗板をカンカン打叩くがこれは家長の仕事の一つでもある。

次に主食は最近では輸送事情が良好になつたので概ね米飯に切替えたとは思はれるが筆
者が在住の頃は矢張り古米通り、もつぱらの稗食でこれも冷飯ともなるとお湯をかけ塩か
らい漬物でサラサラかけ込まない限り米飯の様なねばりさがなく箸にも棒にもかゝらない
しる物でその味も米飯の比ではない。

尤も海拔一〇〇〇米以上の寒冷地帯であるので古来より米作は殆んどなく稗の収穫によ
つて糊口を稼ぐのが関の山であつた。従つて一生米飯にありつくことがなく息を引きとる
いまわのきわに生米を竹の筒に入れ米の音を聞かせて安樂往生をさせたという哀れな逸話
さえ残っている。

更に話は聊か鼻端になるが特に奇異とするものに厠がある。朝食をすませていざ大勢の
者が一度に用便することになると普通厠の一つや二つでは到底間に合うものでなく、考え
出されたのが大厠である。それは家の片隅にデッキカキ桶を地下に埋めその上に幾枚もの葎
し飯が並べてある。勿論一人一人の仕切とか厠いと云うものは全くないのでその用便の姿
は恰かも幾つかの雀が電線に止まつておる様を恰好で仮りに妙齡の婦人が先客にでもあり

とするなら如何な武骨な男でも、外来者なら一寸用便するの勇氣がなく、ためらはざるを得ない珍景である。

然しこれも生れ乍らの習慣である以上彼等は何の憶面もなく誰が入つてこようと平氣の平左で唄い乍らにして用を達している。

又食事にしても寢室にしても多数家族の同居生活であるので絶体に贅沢は許されぬが中でも寢室は三十畳もあるうかと思われる大広間の然も板の間に整然と二十人三十人が枕を並べて寝につく、さて明朝にもなると下敷である筵を表にしてその中に蒲団を巻き恰も巻煎餅の如くにして室の片隅に並置する。従つてその巻煎餅の紋を読むことによりこの家族は何人であるか直ちに判明するものである。

右の様に男と女の大広間では男は男、女は女丈でザコ寝をする訳だが若し夫れ外来者などが娘と交渉が成立し夜中ひそかに女室を訪れる場合何番目の蒲団に彼女が休息しておるかをよく確かめておかないと六十婆さんの床にでも入ろうものならそれは大醜態を演ずること必定である。

以上は大家族の生活模様の一端であるが、こゝ白川郷は何にしても春から秋にかけての山影は洵によく特に夏は避暑地としても又別天地である。

人情はよし実に天下泰平の秘境であるが、愈々十一月ともなると音もなく降り積る雪は一夜にして丈余となり翌年の圓月までは交通杜絶となる。こうなると猫の子一匹往来するではなく、雪にあけて、雪にくれる淋しい世界が幾月も続くことになる。

白川郷の冬は熊も人も冬眠の形だが夜な夜な炉端をかこみ炭茶をすゝり乍ら談笑する一族の姿は又何かしら吾々の想像もつかぬ楽しみがあるのかもしれない。

以下次号へ

環流



昔から不言実行という言葉がある。これは言うまでもなく、言はずして実行に移すことである。然るに方今では、言うことは正論めいているがいざ実行に移すことになるとその構想とか手段方法等、所謂の思想を文章として表現することすら出来ない。これは理窟をはく人に限り特に多い様な気がする。結局食乞の「おかゆ」となるわけである。序でだから説明するが乞食のおかゆは湯（言う）許りで中味が無いことを意味するもので理窟許り云うて実行の伴は無い人をさすのである。

とに角我々は正論をはく一面その実行力を持ちたいものである。

編輯後記



○九月八日、九日、の一泊二日の連合会旅行については色々と不満の点があるが本紙の方針である人の悪口は云わぬことにし、ここでの発表はさしひかえる。然し何にしてもあれだけの人を扱うのだから予め相当の準備が必要であることはいうまでもないが部屋割りの不手際といいたべての統卒が乱れていたこと等は返すがえすも残念である。

○金融引締めでどの業果もめざましい動きはない様であるが秋風もたつた昨今ようやく少しづつ動き出した様な気がする。どうかうんと動いてもうけあることを祈る。

○函をあげての祭典オリンピックもあと一ヶ月に迫つた。どうか国民の一人として有終の美をおさめられる様祈ること切。

○秋の味覚で食生活は大いに進む然し胃袋も身の内と心得へ十分養生を致しませよう。

昭和三十九年九月十日

才五号編輯を終りて高野しるす

